

鳥取・島根両県知事会議 会議録（概要）

日 時：平成21年12月19日（土）午後3時から

場 所：鳥取県知事公邸 第1応接室

出席者：鳥取県知事 平井伸治

島根県知事 溝口善兵衛

平井知事

もっと早く両県知事会議を鳥取で行う約束であったが、大橋川問題もあり、少々タイミングが遅くなったが、（大橋川改修事業の両県知事協議の）この機会にさせていただいた。

いくつか両県の間で本日話し合いをさせていただければというテーマがある。一つは、高速道路、それから山陰文化観光圏の問題、それから両県が先ほど、協定書を結んだが、共同してもっと今以上にやらなければならない、そういう組織作り。そして中海のこれからの未来に向けたものなど、4つほどのテーマで、少し方向性を出していければと思う。

1 山陰道について

平井知事

まず、山陰道や高速道路ネットワークについて如何。

溝口知事

日本の中を見ると、ご承知のように、いくつかの地域で高速道路のネットワークが繋がっていない所があり、この前も平井知事のご提案で、そうした県と一緒にあって、国に対して働きかけていこうということで、9県知事の活動があった。同じ状況にある県が協力してやっていく必要があるということを痛切に感じている。新しい政権下、今、予算編成が行われているが、概算要求の段階で、道路建設などのための予算が削減され、大変影響が出ている。それは政府の一つの政策なので、それはそれとしても、知事をしていて、企業誘致でも高速道路がないと大きな障害になる。あるいは救急医療でもそうです。災害が起こった場合は、迂回のため、もの凄く時間がかかる。やはり、基幹的な道路、特に高速道路は、教育、医療などと同じように非常に基礎的で、国が地域に関係なく一定水準のサービスが提供できるようにするのが国の義務。そうした観点から、都市の既に整備が済んでいる人たちにも理解してもらうような活動が必要。

この前も、9県知事の中でそうしたことを訴えたが、道路予算が沈んで、新規の所に大きな影響が及ぶような構造になっている。厳しい予算の中であっても、基礎的な高速道路は、早くつなげるように優先してもらわないと、なかなか打開できない。

そういう意味で、両県で、国民に対する影響力を増やすために、みんなで一緒になって是非やっていきたい。

平井知事

私も全く溝口知事のおっしゃることと同感。前は9県の知事会議をやりました。あの

時に、島根県も鳥取県も各県民主党の関係議員も出てきて、言わば議連のようなものと共同歩調というか、統一行動も一部やりながら、要請活動した。ようやく、ここに来て響いてきたと感じている。

先般、与党の申し入れがあり、小沢幹事長が、政府側に予算要望の重点事項をおっしゃった。与党3党でも申し入れもあった。その中には、具体的に山陰の高速道路をやりなさいとはっきりと書いている民意もあり力強い。しかし、国交省から示されている配分案によると、我々のように高速道路が整備されていないところに、厳しい内容が含まれており、これから予算が編成され、さらに個所付けに向かっていくと思うが、溝口知事がおっしゃったように企業誘致にしる、医療にしる、それから文化交流などの拠点にしる、観光にしる、まずは一番目に必要なインフラストラクチャー。少なくともそうした基本的な高速道路は、全国にきちんと整備するのは、国の役目であると訴えていきたい。多分これから、越年して活動は続けなくてはいけない。

溝口知事

来年度の予算は真最中。財源事情も非常に厳しい。この問題は、今年度、来年度に限ることではないので、将来に向けてどうするのかということ。

この前の民主党の政府に対する政策要望の中でも、地方が必要とする道路について、6月までに成案をつくるようにして欲しいと言っている。そうした中で、各県で、または各県を横断する最も大切な高速道路が一つは少なくとも出来ているという、共通のミッションを打ち立ててもらわないと、今の経済状況や逼迫する財政状況を見ると厳しい。

そういう意味で、鳥取、島根は共通の状況にあるので、是非とも一緒になって、他の県にも訴え、そして大都市圏域の道路整備が進んだところの人たちに理解を求める努力が必要。

平井知事

是非、そういうことでやりたい。

2 山陰の魅力発信について

平井知事

2点目として、山陰文化観光圏。西部の石見銀山から鳥取県の中部に至る。これは、指定をされ、これからいろいろと事業を進めていくことになる。中海を中心とした東西に開いた扇のような一帯を盛んにしていければと思う。山陰文化観光圏のバス鉄道の旅のような2次交通のマップや観光案内や着地型の利用のパンフレットなどを、両県が山陰文化観光圏としてやってきた。この際、もっと中海なども正面から取り上げて、観光商品化してはどうかと思う。今、民間で例えば、米子から安来に行くような船があるが、山陰の良さが光るような楽しみ方を提起してかなくてはいけない。例えば、今度やることになっていると思うが、観光のための2次交通の周遊ルートバスを我々は考えなければいけない。

今、事業仕分けに、山陰文化観光圏の事業が引っかかっているという面もあるが、国の予算は国の予算として、折角の山陰両県が共同歩調をとることが出来るので、この機会にこれも推進してはどうかと思っている。

溝口知事

そうですね。国も観光庁をつくって、観光を日本のリード産業の一つにしなければならぬ。山陰文化観光圏に文化と入っているように、両県には古くからの文化があり、新しい文化もたくさん出てきている。国の施策に応じて両県、関係市町村もやっているが、心強いのは民間の方々が一生懸命やっていること。山陰文化観光圏を推進するオフィスが鳥取にも松江にも出来て、民間の方も集まって協議し、実際に進んでいる。私たちは、一緒になって、その動きをバックアップしたい。

平井知事がおっしゃったように、広い圏域を回れる交通網を整備するとか、バスの時刻が入ったような観光情報の提供、圏域を回るような観光商品をつくってもらうよう都市の旅行会社にPRするとか、いろいろやると思うので、是非一緒に頑張っていきたい。

平井知事

ちょうど朝の連続テレビ小説で1年経ったら、今度はゲゲゲの女房ということになり、最初の出だしは長く安来の話があるそうで。

溝口知事

(水木しげる氏の)奥様が安来のご出身で、最後は境港。上手いこと両県の隣のまち同士の結び合っているということで、シンボリックなドラマになる。

平井知事

結婚式を挙げたのは、米子の文化財住宅である後藤家住宅。最後は、出世話なので多分、境港が絡む。大方は東京の調布だと思うが、恐らく、全国の人に山陰文化観光圏の周遊性のある旅のテーマにするチャンスだと思う。JRのキャンペーンも含めて、仕掛けていけばいい。新年度予算を今私どもは組んでいますし、溝口知事の方でも組まれていると思うが、そうした中で、ドラマなどを活用したいろんな観光商品などの造成を支援していければと思う。

溝口知事

平井知事の方で始められた東海、ウラジオストクを結ぶ航路で観光客の方が韓国からたくさん来られ、若い人も来られており、公共交通を使って、日本の古い文化を持った地域を周っていただくことで、日韓の相互理解が深まるということもあり、国際的にも是非やっていきたい。

平井知事

出来れば、両県で山陰文化観光圏の仕組みを活用し、海外からお客様に来ていただきやすく、楽しんでいただける企画をつくらせていただきたい。米子ソウル便やDBSクルーズフェリーという海外へ行く足がかりが山陰の中央の地にあるので、それを利用した誘客ができる。

来年6月にアメリカの方から妖怪道というツアーをつくらうとしている。東海道五十三次の十返舎一九のものをもじって妖怪道。東京から京都に行き、されから境港に入っても

らい、そこから出雲大社の方に入ってもらい、松江の小泉八雲の関係を歩いていただくという水木プロもかんだ企画。こうした外国人へのプレゼンテーションもあるので、そうした周遊旅行を誘客していきたい。

特に、中国だと思う。この間もアジアナの幹部の方とお話させていただいたが、中国人の旅は、8泊9日とか、7泊8日とか、すごく長いそうです。中国から韓国を見て、近い山陰あたりを見て、この辺りを見て歩くようなパッケージツアーは、中国向け、特に個人旅行が増えてくるので、非常に効果があるとの話なので、是非、協調して誘客に努められればと思う。

溝口知事

山陰文化観光圏というのは、多彩な見所がある。ゲゲゲの鬼太郎のように、日本のアニメの先駆者のような、日本を代表するような、若い方にアピールするようなものとか、今度は、松江城など近世の日本の文化、古代の文化としての出雲大社、中海・宍道湖といった自然、大山の雄大な自然、多彩なので、そういう意味では何泊もかけて旅行していただくには、本当に良い場所だと思う。

観光庁も両県をまたがる数少ない観光圏ということで、サポートも考えておられるので、国にもお願いしながら、一緒になって頑張ってもらいましょう。

3 人事交流について

平井知事

先ほど、両県一緒に組織作りや工夫できることがないかという記者からの質問もあったが、折角、こうして中海についての協定も結ばれたので、お互いに人を派遣しあって、中海の水質改善などに取り組むことをしていったらどうか。

今も、次長級の職員の交換を溝口知事の方で引き受けていただき、両県の幹部が交換されるという全国でも珍しい両県行為が始まっている。若手の交流人事もやっている。

それに加え、実質上、そうした仕事をする課長級の人事交流も他県ではないと思うが、やってみてはどうか。

特にラムサール条約が来年5周年になる。それから今回、話題になっている水質改善の中海のことだとか、こうした環境問題くらいをお互いに協調してやっていく意味で、例えば担当課長を交換するとか、従来に比べもっと踏み出して、組織交流できないものかと思いますが、その辺りは如何。

溝口知事

いいですね。次長級をやり、若い人も交流していますが、中堅の課長クラスについてやるというのも、大いに進めていきましょう。

平井知事と私で若い職員に出てもらって、山陰の観光をどうするかとかいろいろやってもらった。聞くと、鳥取県の職員がどんな人か知らなかったが、話すとみんな一緒だという意識が出てきた。両県が交流を深めていこうとするとき、互いに知っている人がいるというように層を厚くしていくことが大事なので、是非考えていきましょう。

溝口知事

若い人の討論会で、平井知事の提案で、山陰口ハス本という山陰の情報をまとめた本を作るという作業も進んでいる。

平井知事

12月から執筆に入っているので、それも応援して、若手職員の手で両県共通の口ハス本を作ってもらって、若い女性などをターゲットにして売り出す。

溝口知事

それも、山陰文化観光圏の一つの要素として活用できる。

平井知事

そういう意味で、山陰は今注目されている。先般、女性のルポライターが書いた山陰旅行という本が出され、北海道、沖縄に続いて3番目に書いていただいたが、何故か沖縄の本より売れている。

やはり、民芸風のクラフトとか、食べ物とか、自然だとかがトレンドになってきているのではないかと。それが本の中でも、ふんだんに取り入れられ、うけている。両県の職員が、口ハス本を作るとするのは、あまり他所でもない。両県が協調する証として、推進していただければと思う。

溝口知事

温泉も随分両県にあるので、そうした中で取り上げられる。

4 中海圏域のこれからについて

平井知事

最後に、中海の今後の未来のこと。さきほど()大分意見交換させていただいたが如何でしょうか。

()同日、両県知事会議に先立ち、「大橋川改修事業にかかる両県知事協議」を行い、両県協定書を締結の上、大橋川改修事業の実施について合意。

溝口知事

一つは、今回の問題解決では環境が大きなファクター。中海・宍道湖は全国でも数少ない汽水湖でラムサール条約に入っている。その環境がきれいに保たれていく、あるいは改善していく。そのために両県で、年に一回のごみ集めを行っている。そういう活動を両県で広げていく。そうするといろんなことで、両県の人々の考えも共通の目的に向かって行くなど好影響がある。観光などでも、美しい自然がこの地に残っている。水辺には鳥も来る。湖には豊かな漁業資源もあり、それを利用した料理もある。環境がこの地域の大事な要素なので、さらにこの面で協力していくということが出来る。

平井知事

確かに今、C O P 1 5 の真最中だが、産業革命の時よりも温度上昇を 2 度までに抑えることを軸に議論されている。世界は、そうしたことでライフスタイルも産業構造も変わってくる。山陰イニシアチブというような考え方で、両県がこの関係の分野で先行していけるようにしていければ有難い。

溝口知事

山陰は、豊かな古い文化もあり、本当にきれいな自然があり、一種の楽園のようなイメージをつくっていくということが、この地域に人々が来ていただく大きな要素になる。そうした面で、更にいろんな協力が拡大するように、我々もそうだが、若い人たちにもやってもらえば良い。

平井知事

ちょうど、ラムサール条約が平成 1 7 年に結ばれたので、そのラムサール条約の指定から新年は 5 年になる。新しい年に両県共催で、是非ラムサール条約 5 周年プロジェクトで記念の式典をやるとか、若い人特に子どもたちも大いに加わってもらい水鳥、そして水鳥が住まうことが出来る水辺空間の創造に向けて、我々が、重点的なプロジェクトを、新年、両県が予算編成時期なので協調してやっていければ良い。

溝口知事

それはいいですね。5 年は最初の区切りなので、今やっている活動を更に盛り上げるような工夫を何が出来るか、少し勉強してもらえばどうか。

平井知事

海外から人を呼ぶことも出来るでしょうし、いろいろ膨らませて、折角、両県の協定が結ばれたので、その最初の事業として、取りかかってはどうか。

溝口知事

象徴的だと思う。環境というのが今回の合意でも大きな要素であり、ラムサール条約 5 周年で、両県の協力を大きくするような形でやっていきたい。

平井知事

わかりました。これから、是非、両県の共通の共同体制に向け、溝口知事からご指導いただければ有難い。

時間が予定より 1 0 分程度超過したが、非常にお寒い中、ご来県いただきありがとうございます。ありがとうございました。